

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770126

研究課題名(和文) 亡命ロシア文学の帰還とその受容 - ディアスポラ・トラウマ・視覚文化

研究課題名(英文) The Return of Russian Emigre Literature and Its Reception - Diaspora, Trauma, Visual Culture

研究代表者

中野 幸男 (Nakano, Yukio)

同志社大学・グローバル地域文化学部・助教

研究者番号：40640800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：亡命ロシア文学の帰還に関して、主にアメリカのASEEES(スラヴ東欧ユーラシア研究協会)年次総会を中心に3回発表を行い、20世紀を代表する亡命ロシア雑誌であるニューヨークのNew Reviewに3本の論文を掲載した。それ以外にも、ペンザにおける国際学会の論集などに、亡命とは異なる現代文化から見た亡命文学(例えば、「LiveJournalにおけるナターリヤ・ゴルバネフスカヤ」「サミズダートのメタファーとしてのインターネット」)についての論文を掲載した。いずれも現代文化とともに変化するロシア文学の現在を捉え、1991年以後のロシア文学がいかに変化しつつあるかという問いに答えるものとなっている。

研究成果の概要(英文)：Concerning the subject of the project "The Return of Russian Emigre Literature and Its Reception" three papers have been given in ASEEEES(Association for Slavic, East European and Eurasian Studies). These papers were written based on the archival research in the U. S. universities(Stanford, Yale and Columbia). And three papers based on these presentations have been published in Russian emigre journal "New Review" in New York. Concerning the research on contemporary Internet culture and Russian literature, two papers have been published in the collections of papers in Penza State University in Russia. This project has been dedicated to the research on the contemporary culture and Russian literature since 1991 and partly answers the question on the transformation of Russian literature after Internet and social media environment.

研究分野：亡命ロシア文学

キーワード：亡命文学 ロシア文学 トランスリンガル文学 ディアスポラ ト라우マ インターネット

1. 研究開始当初の背景

1985年のペレストロイカ以後、それまで特殊化されてきた「亡命ロシア文学」は作家と祖国を結びつけてきた本質主義的な視線や、「亡命」という形容辞に対して疑問が向けられてきた。1970年代後半には「二つのロシア文学」として議論され、二つのロシア文学を川に譬えながら「亡命ロシア文学」という支流は「ロシア文学」という本流にいずれ戻り、かつそれでもソ連国内文学に劣らない輝きを放つだろうというような希望的予測も存在した。また知識人の典型としての「亡命者」性は、形容辞なしの「亡命者」であり、それは現在における起源を欠いたディアスポラであった。亡命者は現在では世界に散在するディアスポラとして、必ずしも祖国への帰還という従来の言説のうちに収まらず、祖国から離れる離散状態という特性においてディアスポラとなる。ディアスポラは祖国への帰還という起点を中心としたナラティヴよりも「異質な領域間の移動や伝達」によって定義づけられ、ペレストロイカ後の亡命ロシア作家たちも従来の「亡命」言説に従って帰還するだけではなかった。

「亡命ロシア文学」

ここで「亡命ロシア文学」と呼ばれているものは、従来の十月革命、第二次大戦あるいは1970年代から1980年代の政府による言論弾圧を機会に国外に出た亡命ロシア文学者により作り出された文学のみならず、その後に国外に定住しながら、その地の言語で創作を行う世代の作家も含む。ペレストロイカ以後、亡命作家は祖国に帰還し、あるいは帰還せず亡命地に定住し時に応じて帰還するといった、それ以前には見られなかった祖国との関係を作り上げている。また民族的起源として祖国を持ちながら、それとは異なる国に生れ、その地の言語で創作を行う作家や、政治的理由以外の理由で国外に出た作家たちも現在の「亡命ロシア文学」は含んでいる。そのため、もはや「亡命ロシア文学」という定義づけが可能なのか、という疑問を含んだカテゴリーとしてロシア国内の最新の文学史では「亡命」と分類されないまま「現代ロシア文学」の作家として亡命ロシア語作家は含まれている。しかし、それが「ロシア語」文学であり、「英語」や「フランス語」で創作を行う作家が含まれていない所に、英語圏文学やフランス語圏文学と跨境する現在の「世界文学」としての亡命ロシア文学の可能性が含まれている。

「ディアスポラ」

ディアスポラとは、従来ユダヤ人離散者を示す用語であったが、現在ではそれ以外に意味は一

般化され、1960年代にはアイルランド人やアルメニア人の離散を、1980年代には「異なる種類のカテゴリー」を「隠喩的に指示」するものとして国外退去者や移民などの龐大な群れを指示するようになり、1990年代以降はアイデンティティの複雑性の増大や脱領土化によりディアスポラ概念は再形成された(ロビン・コーエン、2008)。

2. 研究の目的

本課題申請時における当初は、本研究は「ロシア文学」と「亡命文学」の中に「亡命ロシア文学」を位置づける試みであり、これまで「亡命ロシア文学」を特殊化してきた視線を統合的に研究しながら、必ずしも政治的理由で祖国のみに縛られるのではない現代のディアスポラの文学としての「亡命ロシア文学」を読み解くという試みであった。またその目的は、これまであまり顧みられてこなかった表現手段と表現の場をもたらしたタイプライターや録音機、ビデオカメラなどの技術革新に視線を注ぎながら、現代ロシアにおいて「亡命ロシア文学」という言説を構成するディアスポラ・トラウマ・視覚文化の問題を構成し、現代ロシアを解明することを目的としていた。

3. 研究の方法

本研究の目的はペレストロイカ以後の亡命ロシア文学の帰還を扱いながら、従来の亡命文学研究で顧みられてこなかったディアスポラ性を明らかにすることであり、現代ロシアにおける「亡命ロシア文学」受容に関して以下の3つの観点から考察を進める。

1 制度上の問題

2 技術的な問題としてのメディアの分析

3 メディアを通して表象されたものの問題の分析

また、上記の観点から従来の研究で捉えられてこなかった文学作品の受容に関する社会的側面である読者・評判・噂などに注意を向けつつ、主に在外研究による資料収集や聞き取り調査を行い、研究成果は国内外のシンポジウム等で発表される。

4. 研究成果

本研究ではこれまでロシア文学史の枠内で「亡命」を位置づける研究を行い、とりわけ英語圏に大きな影響を及ぼした「ロシア文学史」を英語で執筆した3人の批評家(ミルスキー、ストルーヴェ、スローニム)に関してロシア文学の外部における多文化・多言語交渉の典型として分析した。また文学裁判で知られる「第3の波」世代の作家シニャフスキーやプロツキーに関しては、世代の離れた彼らの亡命観からその作品を分析してきた。

1980年代以前の「亡命文学」研究においては、

ソ連帰国の可能性を持たない作家がほとんどであり、亡命文学研究も祖国へのノスタルジアや祖国への帰還というナラティブの呪縛から解放されることはなかった。しかし、ペレストロイカ以後は「亡命ロシア文学」の帰還が予想外の形で進み、必然的にこれまでの研究方法に再考を促すものとなった。

この研究は以上のような前提を踏まえて進められ、この四年間の間に雑誌論文（ロシア語）を5件（タンボフの論文はニューヨークの雑誌に転載されたので転載を含めると6件）、学会発表は17件（日本語5件、英語6件、ロシア語6件）、書籍は翻訳書が一冊刊行された。主にほとんど毎年参加していたASEEES(Association for Slavic, East European and Eurasian Studies)の英文発表原稿をロシア語に翻訳したものがニューヨークの代表的ロシア語雑誌 *New Review* (Новый Журнал) に3本掲載されている。本研究は平成25年より四年間の計画でペレストロイカ後の現代ロシア文学における亡命ロシア文学について論じながら、同時にその語られてきた帰還のナラティブの多様性について論じるものであり、またインターネット後の文学を取り巻く状況、現代の技術革新にも注意を向けながら、現代において「亡命ロシア文学」という言説を構成する「ディアスポラ」「トラウマ」「視覚文化」の問題を多様なメディアを通して検討するものであった。以下「ディアスポラ」「トラウマ」「視覚文化」に関して業績を代表的なものを取り上げながら、以下のように分類する。

1)ディアスポラ

学会発表の7)「ディアスポラ文学としてのロシア・トランスナショナル文学」で主にロシア語話者である英語文学やドイツ語文学の立役者である作家たちを取り上げながら、「亡命文学」以後の「ディアスポラ」の意義の変化と「トランスナショナル文学」と呼ばれる必ずしも祖国に還元される本質主義的な見方で捉えられるわけではない作家とその文学作品に関して論じた。

2)トラウマ

主にトラウマを扱った博士論文を基にしている学会発表1)「記憶と表象—シニャフスキー／テルツにおける地下文学・収容所・亡命—」、3)「シニャフスキーとトラウマ」などを中心に、プーシキンの「追悼」の研究などを参考にしながら、現代ロシアの「亡霊」でもある精神分析・歴史学・文学などの多くの領域にわたるトラウマの問題を検討した。

3)視覚文化

雑誌論文の2) Интернет и диссидентство 1960-х гг. в России: Наталья Горбаневская в Живом Журнале. 「インターネットと

1960年代反体制運動：LiveJournalのナターリヤ・ゴルバネフスカヤ」、3) Самиздат как метафора Интернета 「インターネットのメタファーとしてのサミズダート」、学会発表の11)«Интернет и диссидентство 60-х годов: Наталья Горбаневская в Живом Журнале». 及び北海道大学での日本語発表は雑誌論文2)と同一の内容である。1960年代反体制運動の中心的人物ナターリヤ・ゴルバネフスカヤに焦点を当てながら、彼女の地下出版における活動、チェコスロヴァキア侵攻時の活動、そしてペレストロイカ後から死ぬまで続けられたLiveJournalでの執筆などを分析し、その歴史的な位置付けは、「インターネットのメタファーとしてのサミズダート」で行われた。

以上の研究を踏まえて、全体の成果をまとめると、本研究により現代ロシア文学を取り巻く様々な状況の変化が明らかになり、歴史的に位置付けられた。1991年以後の現代ロシア文学における「亡命文学」観は祖国へと引き寄せられる本質主義的な視点から、「異質な領域間の移動や伝達」として捉えられる「ディアスポラ文学」の視点へと変貌を遂げて行った。その状況の変化に対して、新たにインターネットのような技術的革新が加わり、作家の作品発表が紙媒体だけでなくゴルバネフスカヤのようにLiveJournalでも意見を発表し、多くの作家がホームページを持ち、SNSでは多言語で執筆を行う状況が生まれてきた。そして「メモリアル」のような団体は具体的な「追悼」として収容所の囚人名簿などをオンラインで公開している。状況の変化全体を扱うことは不可能であるが、「ディアスポラ」「トラウマ」「視覚文化」という視点に関して1991年以後の変化が分析された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計5件)

1) Юкио Накано. Американский период Марка Алданова (中野幸男「マルク・アルダーノフのアメリカ時代」) // Новый Журнал. №286, 2017. С.309-315.査読有

2) Юкио Накано. Из переписки Глеба Струве

(中野幸男「グレープ・ストルーヴェの書簡より」) // Новый Журнал. №282, 2016.

С.313-317.査読有

3) Юкио Накано. Самиздат как метафора Интернета (中野幸男「インターネットのメタファーとしてのサミズダート」)

современной журналистики: сб. науч. ст. III Междунар. науч.-практ. конф. (г. Пенза, 24-26 сентября 2015 г.) / под ред. доц. Е.К. Рева. Пенза, изд-во ПГУ, 2015. С. 66-70. 査読有

4) Юкио Накано. Интернет и диссидентство 1960-х гг. в России: Наталья Горбаневская в Живом Журнале. (中野幸男「インターネットとロシアの1960年代反体制運動」)

Журналистика и культура: сб. науч. ст.

I Междунар. науч.-практ. конф. (г. Пенза, декабрь 2014 г.) / под ред. д-ра филол. наук Е.Н. Сердобинцевой. – Пенза: Изд-во ПГУ, 2014. С. 17-22. 査読有

5) Юкио Накано. История издания романа «Мы» на русском языке: по архивным материалам Глеба Струве, Михаила Карповича и Издательства имени Чехова. (中野幸男「グレープ・ストルーヴェ、ミハイル・カルポヴィチ、チェーホフ記念出版社のアーカイブ資料による小説『われら』ロシア語版出版史」) Литературоведение на современном этапе. Теория. История литературы. Творческие индивидуальности. К 130-летию со дня рождения Е.И. Замятина. По материалам Международного конгресса литературоведов 1-4 октября 2014 года. Выпуск 2. Книга первая. Тамбов-Елец. 2014. – С. 202-210.; «История издания романа «Мы» на русском языке» // Новый Журнал. №277. 2014. С. 319-325. 査読有

[学会発表] (計 17 件)

1) Yukio Nakano “Mark Aldanov and the Chekhov Publishing House” (中野幸男「マルク・アルダーノフとチェーホフ出版社」) ASEEES 2016, November 18, Washington DC, USA. (ワシントンDC (アメリカ合衆国))

2) Yukio Nakano "Utopian Imagination in Russia and the West in the 1950-1960s in the Correspondence of Gleb Struve and Russian Emigrant Writers" (中野幸男「グレープ・ストルーヴェとロシア亡命作家の書簡における1950-1960年代ロシアと西欧のユートピア想像

力」)

ASEEES 2015. November 20, 2015. Philadelphia, USA. (フィラデルフィア (アメリカ合衆国))

3) Yukio Nakano «Aleksander Bacherac in his correspondence with Russian emigre writers» (中野幸男「ロシア亡命作家との書簡におけるアレクサンドル・バフラッフ」) ICCEES

IX World Congress. August 8, 2015. Makuhari, Japan. (神田外語大学 (千葉県・千葉市))

4) Юкио Накано «Ариадна Тыркова-Вильямс, Глеб и Петр Струве» (中野幸男「Ариадна・ティルコヴァ＝ウィリアムス、グレープとピョートル・ストルーヴェ」) . Международная конференция «Русская литература и культура в условиях глобализации» и Ежегодная научная конференция Китайской ассоциации по исследованию русской литературы. 26 апреля 2015 г. Сиань, КНР. (西安 (中国))

5) 2014 年日本スラヴ学研究会研究発表会

(2015年3月20日、早稲田大学早稲田キャンパス) 中野幸男「フランスの亡命ポランド雑誌 Kultura と Jerzy Giedroyc」

(早稲田大学 (東京都・新宿区))

6) 国際ワークショップ「ソ連崩壊と歴史ファンタジー文学の可能性」(2015年2月14日) 中野幸男「ソヴィエト文明に『おやすみなさい』: 作家シニャフスキーのフランス講義」

(学士会館 (東京都・千代田区))

7) Юкио Накано «Интернет и диссидентство 60-х годов: Наталья Горбаневская в Живом Журнале» (中野幸男「インターネットと60年代反体制運動: LiveJournalのナターリヤ・ゴルバネフスカヤ」) .

Первая международная научно-практическая конференция «Журналистика и культура». 4-5 декабря 2014 (заочное участие). ; 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・ユーラシア表象研究会(2014年12月18日)「インターネットと反体制—LiveJournalのナターリヤ・ゴルバネフスカヤ」(北海道

大学（北海道・札幌市）

8) Юкио Накано. Лекция "История русской эмигрантской литературной критики: Мирский, Струве, Слоним". (中野幸男「ロシア亡命文学批評史：ミルスキー、ストルーヴェ、スローニム」)

«Русская литература в контексте 21 века – прошлое, сегодня и будущее». 26 ноября 2014. Чэнду, КНР. (成都 (中国))

9) Юкио Накано. Доклад “Эдмунд Уильсон и Роман Гринберг по архивным материалам». (中野幸男「アーカイヴ資料によるエドマンド・ウィルソンとロマン・グリーンベルク」)

«Русская литература в контексте 21 века – прошлое, сегодня и будущее». 25 ноября 2014. Чэнду, КНР. (成都 (中国))

10) Yukio Nakano “Gleb Struve and Michael Karpovich: the Chekhov Publishing House and the Revival of the “Blacklisted” Writers”

(中野幸男「グレープ・ストルーヴェとミハイル・カルポヴィチ：チェーホフ出版社と「ブラックリストの」作家の復興」) Annual Convention 2014. Association for Slavic, East European and Eurasian Studies. 20 November, 2014. San Antonio.

(サン・アントニオ (アメリカ合衆国))

11) 平成 26 年度日本ロシア文学会研究発表会 (2014 年 11 月 2 日、山形大学小白川キャンパス)「ディアスポラ文学としてのロシア・トランスナショナル文学」(山形大学 (山形県・山形市))

12) Юкио Накано. «История издания романа «Мы» на русском языке: по архивным материалам Глеба Струве, Михаила Карповича и Издательства имени Чехова».

(中野幸男「グレープ・ストルーヴェ、ミハイル・カルポヴィチ、チェーホフ記念出版社のアーカイヴ資料による小説『われら』ロシア語版出版史」) Первые российско-украинские филологические чтения

«Диалог славянских культур». Международный конгресс литературоведов. 1 октября 2014 г. Тамбов, Россия. (タンボフ (ロシア))

13) Yukio Nakano «Nikolai Gumilev and Gleb Struve». (中野幸男「ニコライ・グミリョフとグレープ・ストルーヴェ」)

International Conference on Modernist Literature. Shanghai International Studies University. 7 December, 2013. Shanghai. (上海 (中国))

(“现代主义的文学世界与世界文学中的现代主义”国际研讨会、2013.12.7-8. 上海 (中国))

14) Yukio Nakano “Alien as a Soviet Citizen: Representation of Alienation in Andrei Sinyavsky’s ‘Pkhents’” (中野幸男「ソヴィエト市民としてのエイリアン：アンドレイ・シニャフスキー「プヘンツ」における疎外の表象」) Annual Convention 2013. Association for Slavic, East European and Eurasian Studies. 22 November, 2013. Boston. (ボストン (アメリカ合衆国))

15) 平成 25 年度日本ロシア文学会研究発表会 (2013 年 11 月 2 日) 中野幸男「シニャフスキーとトラウマ」(東京大学 (本郷) (東京都・文京区))

16) Юкио Накано «Борисоглебский союз» и тамиздат». (中野幸男「「ボリスグレープ同盟」とタミズダート」) Международная конференция

«Русская Литература – Преемственность и Инновация». Ежегодная конференция китайской ассоциации по исследованию русской литературы. 24 июля 2013. Вэйхай, Китай. (威海 (中国))

(“俄罗斯文学：传承与创新”国际学术研讨会暨中国俄罗斯文学研究会 2013 年年会、2013.07.23-27.威海 (中国))

17) 平成 25 年度日本ロシア文学会関東支部研究発表会 (2013 年 6 月 1 日) 中野幸男「記憶と表象 – シニャフスキー / テルツにおける地下文学・収容所・亡命 –」(法政大学 (東京都・千代田区))

〔図書〕（計 1 件）

1) アンドレイ・シニャフスキー『ソ
ヴェト文明の基礎』沼野充義・平松潤
奈・中野幸男・河尾基・奈倉有里共訳、みす
ず書房、

2013年、448頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月

日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

中野 幸男 (NAKANO, Yukio)

同志社大学・グローバル地域文化学部・助
教

研究者番号：40640800

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()